

論理・表現Ⅱにおける『Logical English Reading Level 1』活用法

埼玉県立浦和第一女子高等学校 英語科 須田 康子 先生

1. はじめに

『Logical English Reading Level 1』は、本校の2年生の論理・表現Ⅱ（3単位）の授業において導入しました。1年次の論理・表現Ⅰにおいて、スピーチと文法、短めのエッセイライティングを扱ったので、2年次にはそれらを応用させたいという思いがありました。本校では前年度に論理・表現Ⅱにおいて本教材を使用しており、「論理的な英語力が身につく」ことだけでなく、「身近な問題や社会問題に対する知識・教養が身につく」という特徴を備えていた本教材をぜひ引き続き使用し、ディベート実践まで行いたいという思いから、採用を決めました。

2. 授業実践（夏休み前）

週3時間のうち本教材を使用するのは、Expression クラスと呼んでいる1時間です。残りの2時間は、文法や英作文、1年次よりは少し長めのエッセイライティングを扱います。Expression クラスは予習を求めず、授業中のインプット、アウトプットに集中させました。

01 Should homework be banned?

宿題は禁止すべきか

Warm Up!

次の問いに日本語で答えます。

① あなたは宿題を禁止すべきだと思いますか。また、その理由も挙げてみましょう。

Listening Practice ④

Kenが宿題禁止について意見を述べています。英語の音声を聞いて、次の問いに答えます。

① Kenは宿題をなぜ禁止すべきだと考えていますか。

1. 宿題の内容がつまらないから。 2. 部活の練習をしたいから。
3. 十分な休息が取れないから。 4. 宿題の内容が難しすぎるから。 ()

Dictation Practice ④

英語の音声を聞いて、単語や文を正確に書き写してください。

Homework is not an assignment that students are requested to do at home.
Nowadays, teachers () a lot of homework to their students.
() some parents believe that homework should not be banned.
study, I () believe that homework should not be banned.

時間によってこの部分は
割愛することもあり

授業では、夏休み前までに奇数レッスンを通して扱いました。まずは Warm up!を行います。黒板を2つに分け、生徒も半分に分け、賛成、反対の意見と理由をそれぞれ英語で書かせます。また、書き終わってから別のグループの意見と見比べたり、ディベートをするときに書いた内容を振り返ったりしました。

その後、Listening Practice、Reading Practice と、掲載されている順に行いました。問は、シンプルながら、論理的に反論することに慣れていない生徒にとってはやや難しかったようですが、ペアワーク等で、なぜそれを選んだか、なぜそれ以外が正しくないのか、などを話し合ったりしながら、徐々に慣れていきました。

1時間の授業で、賛成、反対の Listening Practice、(Dictation Practice は時間によって割愛することもあり)、Reading Practice、そして Reading Practice のペアリーディングなどを行い、時間があるときには「Column」を読ませ、気づいたことや日本との違いなどを話させました。

賛成 | Ken's argument

Reading Practice

Kenが宿題禁止について意見を述べています。英文を読んで、以下の問いに答えます。

Homework is work that students do outside school. Nowadays, teachers often give a lot of homework to their students. While some people think that homework can encourage them to learn better, I believe that it should not be banned.

This is because homework helps students learn better. For example, they can develop study habits by doing homework. If they keep studying by themselves every day, home study becomes a routine, like taking a bath or brushing their teeth. Eventually, they will get better grades. A really good point about homework is that students can review what they have studied at school. Even if you do not take private lessons outside school, homework can show you what you should do to understand the subject perfectly.

In this way, homework is an important part of our study. Therefore, I believe that homework should not be banned. (141 words)

① Kenの宿題をサポート

1. 部活動は外でやる
2. 習い事や一人作業
3. 家で宿題をする
4. 部活動に参加しない

② Kenの意見の根拠に答

1. 宿題は学習を行う
2. 宿題は勉強習慣を身に付ける
3. 宿題は勉強の習慣を身に付ける
4. 宿題は勉強の習慣を身に付ける

反対 | Rei's argument

Reading Practice

Reiが宿題禁止について意見を述べています。英文を読んで、以下の問いに答えます。

Homework is an assignment that students are requested to do at home. Students in Japan usually get a lot of homework. While most of them hate doing homework, I believe that it should not be banned.

This is because homework helps students learn better. For example, they can develop study habits by doing homework. If they keep studying by themselves every day, home study becomes a routine, like taking a bath or brushing their teeth. Eventually, they will get better grades. A really good point about homework is that students can review what they have studied at school. Even if you do not take private lessons outside school, homework can show you what you should do to understand the subject perfectly.

In this way, homework is an important part of our study. Therefore, I believe that homework should not be banned. (141 words)

① Reiの宿題をサポートする最も適切な長文例文を答えます。

1. 宿題は学習を行う
2. 宿題は勉強習慣を身に付ける
3. 宿題は勉強の習慣を身に付ける
4. 宿題は勉強の習慣を身に付ける

② Reiの意見の根拠に答

1. スマホの学習アプリが使える
2. 宿題は勉強習慣を身に付ける
3. 宿題は勉強の習慣を身に付ける
4. 宿題は勉強の習慣を身に付ける

別冊ノートは宿題として活用しました。Vocabulary は、各自で分からなかったところを調べるために使わせました。ディスコースマーカーや Writing & Speaking 1 は、英語が苦手な生徒が必要に応じて行い、授業の後には、Writing & Speaking 2 を書いてくるように全員に指示をしました。レッスンごとに、友達同士で交換して読んだりコメントをしたりする回、または教員が集めて添削やフィードバックをする回、などというようにフィードバックの仕方を変えました。また、Idea Box の中で重要なものにアンダーラインをさせたり、読みの練習をさせたりして、定着を図りました。

3.夏休み後

夏休み前に本教材の4レッスン分を終え、論理的な英語力を体系的に身につけ、いよいよディベート実践に入りました。まずは、ディベートの型に慣れることに徹します。本教材の他、中川智皓著『授業でできる 即興型英語ディベート』を参考にしました。

Expression クラスを Day1 から Day 8 に分け、それぞれの日に行ったことを記します。

Day 1) ディベートのルール、サインポスト、AREA とは

- ・ 01 Should homework be banned? (AREA の練習において使用)

- ① まずサインポストを作る練習に使用しました。内容はすでに実施済みですので、生徒は難しく、考えられるサインポストを挙げることができました。

やり方は、まず2人組を作ります。全体で肯定側のペアと否定側のペアの数がほぼ同数になるようにします。次に、ペアで協力し、サインポストを2分間でできるだけたくさん書かせます。その後1分で、説得力のあるサインポストを2つ選ばせます。最後に、自分とは逆サイドのペアと選んだサインポストを共有し、説得力があるのはどちらかを話します。

- ② サインポスト作りをしたあと、また同じトピックで AREA の練習をします。AREA とは、Assertion (主張)、Reason (理由)、Example (具体例)、Assertion (再び主張)、の略で、論理的で説得力のあるスピーチができるようになるためのよい練習になります。先ほどのトピックを使い、ペアでの会話形式で練習させました。

A : Do you think homework should be abolished?

B : I think homework should be abolished. (Assertion)

A : Why?

B : It's because ... (Reason).

For example, ... (Example).

Therefore, I think homework should be abolished. (Assertion)

Day 2) Attack Speech について、フレーズ集の紹介、ペアで即興ディベート

- ・ p.39 ディスカースマーカー参照

- ・ 03 Should high school students be allowed to have a part-time job? (即興ディベートで使用)

Day2 ではまず、03 のトピックで「ディベートゲーム」をしました。生徒は AREA を使って話します。ペアになり、じゃんけんで勝った方が肯定側、負けた方が否定側です。2分間で相手を

説得し、相手の発言に対して何も言い返せなかったり 5 秒以上沈黙したりすると負けです。生徒は最初に立って行い、勝負がついたら座るように指示しました。すでに扱ったトピックでしたので、生徒はたくさん発言することができました。

・ 08 Should Japanese high school students study abroad? (即興ディベートで使用)

その後、08 のトピックを使って即興ディベートを行いました。ディベートゲームと同じように、まずペアでじゃんけんし、勝った方が肯定側、負けた方が否定側と決めます。2 分間の thinking time で自分のサイドの理由(サインポスト)を 2 つ考えます。その後、30 秒で肯定側が理由を 1 つ言います。次に 1 分間で肯定側が相手の意見について反論し、その後自分の考えた否定側の理由を 1 つ言います。続いて肯定側が 1 分間で相手の意見に反論し、もう 1 つの理由を言います。このように、相手に反論してから自分の意見を言う練習です。

Day3) Summary Speech について、ジャッジについて、ペアで即興ディベート

・ 06 Online games do more harm than good. (即興ディベートで使用)

Day4) ディベート実践①

・ 04 National and public colleges should be free. (ディベート実践で使用)

PDA スタイルで、実際にディベートを行いました。論題をあらかじめ伝えた以外は、PDA のルールと全く同じです。ただし、初回なので、「とにかく時間いっぱい話そう!」という目標で行いました。ディベートをするときに、本冊の Idea Box を手元に置かせました。生徒にはよいヒントになり、活用していました。そのおかげで、初回にもかかわらず、きちんと内容がかみ合ったディベートになりました。

Day5～7) ディベート実践②③④

Day8～10) ディベート実践⑤⑥⑦<クラス内順位決定戦>



4.終わりに

Day 4 では初めてのディベート実践ということもあり、Motion をあらかじめ示し、不安な生徒は本教材の該当レッスンを見ておくように伝えました。実際のディベートでも、教材で使われている表現をうまく取り入れていた生徒がたくさんいました。Day 5 からは、ディベートをする日の授業の冒頭で Motion

を伝えました。初めて聞いた Motion でも、今までの積み重ねのおかげで、どんどん自信をつけて、積極的に英語で表現できるようになりました。

本教材で夏休み前に通しでやったのは奇数レッスンのみでしたが、ディベート練習や実践で、偶数レッスンもかなり扱い、最終的には 02 課以外は全て授業で行いました。どのレッスンも、Reading Practice は分かりやすい英語でまとまっており、ディベート実践においてかなり役に立ちました。

昨年本教材を使ってディベートの練習をした生徒たちは、3 年生になりました。2 年次に身につけた力は今年も健在で、すでにクラス内ディベートマッチを 1 試合行いましたが、非常に白熱した試合となりました。生徒の自信につながる本教材は、本当に効果絶大だと感じる毎日です。

【プロフィール】

須田 康子 先生（埼玉県立浦和第一女子高等学校 英語科教諭）



浦和第一女子高等学校には令和 4 年度より着任し、現在教員歴は 29 年目となりました。国際交流、探究学習にもかかわっています。趣味は読書。柴犬を飼っており、いつも癒されています。最近フランス語を始めましたが、なかなか上達せず、「何を言われているのか分からない」ことを体験することも多々あります。外国語で「何でもいいから話してみて」がいかに難しいか、を実感する毎日です。